

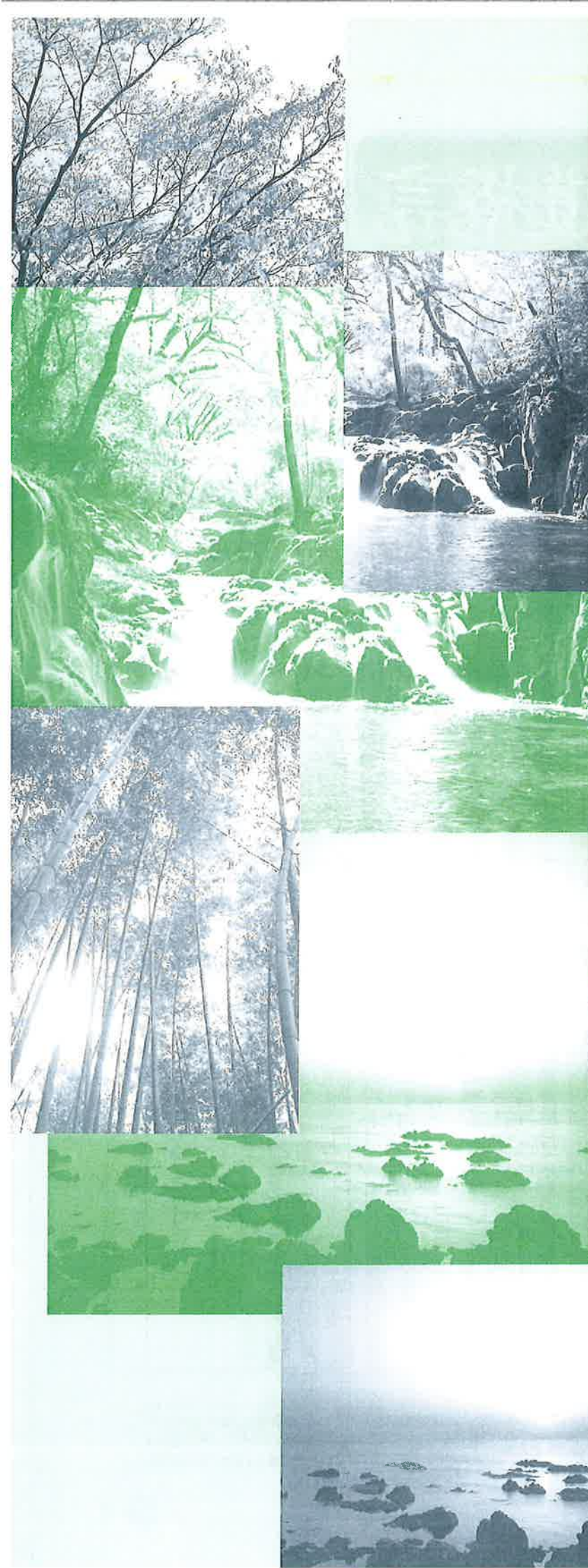
「今の日本はこのままでいいのだろうか」

武士道

BUSHIDO

第3号

平成21年6月1日



武士道格言

その1「日新公いろは歌」①

い

いにしへの 道を聞きても
唱えても わが行いに
せずば甲斐なし
昔の立派な教えを耳にしても、口に唱えても、
自分の行動に生かして実行しなければ、
何の役にも立たないのです。

ろ

楼の上も 埴生の小屋も
住む人の 心にこそは
貴き賤しき
広大な邸宅に住んでいても、小さな粗末な家に住んでい
ても、人間の価値というものは、家ではなく、そこに住む
人の心のありかたで、尊いか賤しいかが決まるのです。

は

儚くも 明日の命を
頼むかな 今日今日もと
学びをばせで
浅はかにも「明日こそは」といつも期待していると、結局、
今日一日さえも何もできないままに、月日が過ぎてい
くものです。

に

似たるこそ 友としよけれ
交わらば われに増す人
おとなしき人
自分に似た人を友だちにするのもよいが、折角、友だち
にするのなら自分より少しでも優れた、立派だと思え
る人を友達にするのです。

ほ

佛神 他に坐しまさず
他人よりも 心に恥じよ
天地よく知る
仏や神というのは、別世界にいてのではありません。それぞれ自分
の心の中にいるものです。だから他人に恥じるのでなく、自分自身
の心に恥じることです。天地神仏は、何事もよく知っています。

へ

下手ぞとて 我を許すな
稽古だに 積らば塵も
やまと 言の葉
何をしてもうまくならないからといって、諦めてはいけません。
稽古さえ根気よく続けていけば、「塵も積もれば山と
なる」というわが国の言葉通り、必ず上達していくのです。

と

科ありて 人を切るとも
軽くすな 活かす刀も
ただ一つなり
その人に過ちがあつて裁くことがあつても、軽々しく決
めてはいけません。一寸の虫にも五分の魂といひます。
人を生かすも殺すも、心のあり方ひとつだからです。

ち

知恵能は 身に付きぬれど
荷にならず 人は重んじ
恥ずるものなり
知恵や能力というものは、どんなに多く身につけても重
荷になることはない。そういう人を見て、周囲の人は彼
に目置いて、自分が及ばないことを恥じることでしよう。

「日新公いろは歌」とは「島津家中興の祖」、「日新公(じっしんこう)」と称された、島津 忠良(ただよし)(1492~1568年)が、5年余の歳月をかけ完成させたという47首のいろは歌。神道・儒教・仏教の三つの教えを基に、人としての生きる道、特に武士として守らねばならない道を説いたものである。薩摩藩の「郷中(ごちゅう)教育」の基本の精神となつたといわれる。孫にあたる島津義弘も多大な影響を受け、その後も薩摩武士、士道教育の教典となつたこの「日新公いろは歌」は、現代の私たちにも通じる多くの示唆を含んでいます。

解説文引用文献:清水榮一著「島津日新公の教え」(PHP研究所刊)

武士道について

武士道協会 副理事長

渡部昇一



●プロフィール

上智大学名誉教授

1930年、山形県生まれ。上智大学大学院修士課程修了。ドイツ、イギリスに留学後、母校で教鞭をとるかたわらアメリカ各地でも講義。上智大学教授を経て、上智大学名誉教授。専門の英語学だけでなく、歴史、哲学、人生論など、執筆ジャンルは幅広い。Orbis(1958)、Orbis(1969)、Orbis(1976)、第24回日本エッセイストクラブ賞(1985年)、第1回正論大賞受賞。著書に『英文法史』(研究社)、『英語の歴史』(大修館書店)など専門書のほか、『知的生活の方法』(講談社現代新書)、『渡部昇一の昭和史』(旺文社ラック)、『ローマの名言一日一話』(致知出版社)など多数。

たいていの国には「文」と「武」の二つの面がある。イギリスにはシェイクスピアもいるがネルソンもいる。フランスにはラシーヌもいればナポレオンもいる。シナには李白もいれば孔明もいる。文でも武でも傑出した人物を出している国が大国あるいは一流国と言えるのではないか。

ルース・ベネディクトというアメリカの女性人類学者が『菊と刀』という本を出して戦後の日本で評判になった。この人は日本に来て調査したことはないそうであるが、日本の特徴を端的に示したい表題の本を書いたものだと思う。

たとえば日本の平安時代の文学や生き方などは「文」そのものであり、正に「菊」で象徴される時代であった。西洋でも最も洗練されていると自負していた人たち——たとえば一九三〇年代イギリスのブルームズベリ・グループの人たち——も『源氏物語』のウェイリーの英訳を読んで「千年前の日本の宮廷の男女たちは、自分たちと同じような生活感覚を持ち、しかもその感情の洗練度や

文学的表現力において自分たちよりもむしろ秀れているのではないか」と驚嘆したのである。

では「刀」で象徴される「武」ではどうであったか。ジンギスカンとその子や孫たちの攻撃に對して戦場で勝利したのは陸のベトナムと海の日本だけである。鎌倉武士で代表される「武」の伝統は近代においても爆発的威力を示し、コロンプス以来、四百年の白人による有色人征服の歴史の流れにストップをかけたのである。日露戦争は世界史の大転換をもたらしたのである。ナポレオンを裸同様にして追い返したロシア陸軍と戦って一つの敗れた戦場もなかった。大艦隊同士が海上で戦って、一方が一艦も失わずに、相手を全滅させた日本海大海戦のような例はないと言ってもよいだろう。敗れたとは言え、大東亜戦争で、航空母艦を中心とする機動部隊を作れたのは日本とアメリカだけだった。

しかし日本は敗戦し、先進国同士の戦に例のない占領政策によって、日本人は、自分の歴史を取

り上げられてしまった。日本史の中の「菊」の部分だけ残された。「刀」の伝統は消された。明治節は「文武の日」というのがふさわしいのに「文化の日」つまり「菊」だけの日にされた。大国たちの必須条件は文武兼備である。日露戦争の將軍たち、たとえば乃木大将は、武人であったが、和歌のみならず、外国の古典語での作詩、つまり漢詩にも秀れていた。こういう人こそ武士道の生きた例である。彼は降伏したロシアのステッセル將軍を丁重に遇した。これに反してマッカーサー將軍は自分と戦った本間雅晴將軍を銃殺、山下奉文將軍を絞首刑にした。彼は武人であったが騎士道、つまり武士道を知らなかった。われわれは武士道、騎士道の精神を日本のみならず、世界に復興・普及させたいものである。

大義名分

武士道協会 副理事長

えぐち かつひこ
江口克彦



●プロフィール
PHP総合研究所代表取締役社長
1940年、愛知県生まれ。慶應義塾大学法学部政治学科卒。松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)入社後、1967年、PPI総合研究所秘書室長、取締役、常務取締役を経て、1982年、専務取締役。1994年、副社長。2004年、社長に就任。松下幸之助のもとで23年間、直接指導を受ける。内閣官房道州制ビジョン懇談会座長、公務員制度の総合的な改革に関する懇談会委員、内閣府沖縄新世代経営者塾塾長なども務める。著書に「地域主権型道州制」「脱「中央集権」国家論」「経営者の教科書」「いい人生の生き方」など多数。

世界的に不況である。景気が好転するのは、これから、どれほどかかるのだろうか。日本経済は、突然にトンネルの中。真つ暗な状況になっている。ほとんどすべての企業が呻吟している。ということとで、リストラ、人員削減である。私は、リストラは、経営者の資質の欠如と思うが、それにしても、企業存続、利益確保を理由にする、日本の経営者の、その思考の貧困さに、哑然とするしかない。松下幸之助は、「大義名分」ということについて、よく話してくれた。社員が納得する大義名分がなければ、会社を経営していくことはできない。結果は同じでも、松下幸之助なら、「この価値観多様化の時代に、諸君は、この会社だけではなく、広く他の会社で自分の才能を発揮できる場所、会社を見つけてほしい、この会社では、諸君の天分を発揮する場がなくなってきた。そこで希望退職を募るので、申し出てほしい」と言っていたらどう。それが、「大義名分」というものである。

武士は、大義に生き、大義に死んだ。石田三成も、吉田松陰も、あの赤穂四十七士も、みなそうであった。それが武士であり、武士道というものだろう。崇高な大義を必要とするのが武士というものである。それがなければ、単なる「犬の生き方、犬の死に方」ということになる。

以前、安岡正篤先生の文章に、次のようなものがあつたと記憶している。

「満州事変が起つたとき、世の中、挙つて、この事変は日本の特殊権益の擁護であり、生命線の維持であり、自衛権の発動である、と言ひ出した。それはいかにももつともであるが、名分が正しくない、名教に暗い論である」。そこで安岡先生は、政府、軍部や言論界の人たちに、「日本がそのよくなことをいうべきではない」と話をし、論争まですした。「いかに日本の生命線の擁護であり、自衛権の発動であり、特殊権益の確保であるにせよ、要するに外国から言えば、それは日本の利益問題である。日本はそのようなことを言わずに、張学

良の軍隊が、満州において日本の民、朝鮮の民、また、満州の民、加えて関係のある世界の人々に、許しがたい暴挙、暴虐を行なつてゐる。その苦しみというものは、人間として耐え難いことである。そういうことだから日本の特殊権益はおろか、日本の生命をも賭して暴虐者を討たなければならぬ。特殊権益とか、生命線の問題ではない。人権の問題であり、人間の問題である——と言わなければならぬ。そう言つてこそ満州事変が義戦になる。そう言わなければ、たんなる利戦となつて、世界から非難され、敵に回すだけだ。しかし、誰も先生のことを聞かず、結果はご承知のように、世界から日本は「侵略国家」と烙印を押されることになつた。そして、日本は敗戦する。

安岡先生の話からしても、いかに「大義名分」が重要であるかがわかるというものである。

武士は、大義に生き、大義に死ぬ。それが武士道というものである。

日本人が帰るべき故郷はどこにある

武士道協会 専務理事

小野晋也



プロフィール
衆議院議員

1955年生まれ。東京女子学院船政専修科講師修了。松下政経塾の第1期生として入学。その後、27歳で衆議院議員、30歳で衆議院議員選出。現在自民党 経済産業政策委員会 自民党文部科学委員長、文部科学大臣、衆議院幹事長兼委員長、自民党中央政治学院 学院長等を歴任。1984年より、国民に対する啓蒙と新しい文壇創出を目的とするOAK・TUNE運動を主宰。2008年2月には、次期衆議院選挙に出馬したいことを表明し、今後は石野の政治家として、地方から日本を豊かに取り戻したいとしている。

今年二月、武士道協会会員の相互親睦を兼ねて、新年交流会を開催した。そこでの講話で、まず最初に、陶淵明の「帰去来の辞」冒頭の有名な言葉をご紹介します。

帰りなんいざ、田園將に蕪れなんとす、
胡ぞ帰らざる

私は、この「帰去来の辞」に、現代日本を見る思いがしたのである。そこで、今稿では、その思いを書かせて頂きたいと思う。

陶淵明(二六五年(?)〜四二七年?)は、中国の東晋末期から南朝宋の初頭、いわゆる晋末宋初の時代を生きた詩人である。二十九歳にして、教育行政官として役人生活に入り、その後、四十一歳にして彭沢の県知事になりながら、わずか八十余日にして辞任。故郷の我が家へ戻ることとなる。その時の思いを詩にしたのが、この有名な「帰去来の辞」である。冒頭に、「さあ帰ろう。故郷の田畑は荒れ果てようとしている。どうして帰らずにおられようか」と、役人としての人生に決別をして故郷へ戻る思いを勇ましく唱っている。

しかし、これは荒れ果てようとしている故郷が自分を必要としているから帰るのだということだ

けではない。むしろ、十三年にわたる役人生活を、苦渋に満ちた誤った日々であったと反省する中に自然に生まれてきた決断であった。だから、この冒頭の言葉に続いて、次のような詩文が綴られているのである。(現代語訳)

“これまでの私は、役人となって自分の心を肉体の召使いのようになってしまったのだ。しかし、それだからと言って、そのことを憂い嘆いて一人で悲しむことがあろうか。過去のことはもう改めることは出来ないかと悟って、これからは、今後の自分の人生をしっかりと生きてゆかねばならないと分かったのだ。

これまで道に迷いながら、誤った人生を生きてきたといっても、実はそんなに遠いところまで行ってしまったのではない。だから、役人を辞めて新しい人生を生きようとする今の自分を是として、これまでの人生が非であったことをはっきりと自覚することが出来たのである”。

そして、この決断の後の心を次のように描いている。

“故郷の途にある私を乗せた舟は、ゆらゆらと揺れながら、軽やかに水面をすべり、風はひらひ

らと私の衣を吹き過ぎてゆく。旅行く人に、これから先の道のりを問いかけてみたところ、まだ、先が遠いことを知り、早く家に帰り着きたいと願う私の心を知らないのか、既に太陽が西に沈まんとして、かすかに暮れゆくことを恨めしく思ってしまうのだ”。

私は、この詩を読みながら、役人生活の中で、確かに外見は立派であり、また、人々から称えられることの多かった人生であっても、それをむしろ心をつた空しい人生と考え、自分の故郷にその心を取り戻そうとする陶淵明の思いを見出すのである。いかに名を高めても、その心が虚であれば、その人生には意味がない。そして逆に、自分の故郷は、見た目には荒れ廢れてゆく姿であっても、それだからこそ、逆にそこに、心の真実を見出すことが出来るのだと語るのである。

私は、この詩に現代日本と日本人を見る思いである。いくら経済的に成功し、外見が華美であっても、心をつたきつつあるこの日本が、このままで良いはずがない。ならば、この日本にとって、そして、日本人にとって、帰るべき故郷はどこにあるのだろうか、考えてしまうのである。



それぞれの『武士道論』

「武士道と京都(3)」 DO YOU KYOTO?」

武士道協会 理事

かどかわ だいさく
門川 大作



●プロフィール
京都市長

1950年生まれ。1974年立命館大学二部法学部卒業。
1996年、京都市教育委員会総務部長。1999年、教
育次長。2001年、教育長。2008年、第26代京都市
長に就任。文部科学省中央教育審議会各都部会委員、内閣
「教育再生会議」委員他、多数の要職を務める。

京都議定書誕生の地である京都市は、この度、
国の「環境モデル都市」の指定を受けた。オール

京都市で行動計画を作成し、現在、市民ぐるみの
取り組みを進めている。そのキーワードが、
「DO YOU KYOTO?」である。ドイツ
のメルケル首相がCOP3十周年で入浴された
折、海外ではこの言葉が「環境にいいことしてい
ますか?」という意味で使われていると発言され
たからである。

しかし、一四七万人の市民が住まいし、年間五
千万人もの観光客が訪れる国際都市であり、伝統
産業から先端産業まで「ものづくり都市」でもあ
る京都にとって、二〇三〇年に九〇年比四〇%、
二〇五〇年に六〇%のCO2削減は並大抵ではな
い。まちづくりや社会の仕組みの改革と技術革新
が不可欠である。何より、市民一人ひとりの生き
方、ライフスタイルの変革が求められる。地産地
消の食文化や自然の摂理に基づく五感を大切にす
る生活、打ち水・門掃き、「しまつ・もつたいな
いの精神」など、「京都流のライフスタイル」の大
切さを市民一人ひとりが共有し、日常生活で実践
できるか否かが目標達成の大きな鍵である。そこ

に現代人の生き方としての「武士道」が求められ
る。

ソーラーカーの生みの親で、クリーンエネルギー
研究で著名なハンス・ストラップさんは、環境保
護の基本は「誰かのためにという生き方」にあり、
「未来を生きる子供たちのことを私たちは考える
べきだ」と言われる。昨年六月、洞爺湖サミット
の開催に合わせ、市内の小中学生など六千人が京
都国際会議場集い「ジュニア環境サミット」が
開かれた。先人の知恵を生かし、環境に負荷をか
けず、自然と共存し、かけがえのない京都を未来
に引き継いでいこうという子供たちの姿は実に頼
もしく、心強かった。

環境を大切にする心は、先祖を敬い子孫に思い
を致し、繋がる命の尊さを次世代に伝える「縦軸」
と、身近な生活から日本、世界へとつながってい
く「横軸」がしっかり交差する中でこそ育ってい
く。この環境を大切にする心と実践は、「惻隱の
情を心に蔵し」、「天地自然の理法と共に生きる」
ことを謳う武士道憲章と見事に重なり合う。我々
一人ひとりが「如何に在るか、生きるか」という
ことが問われている。



武士道精神をどう奨めるか

武士道協会 常務理事

津田 佐兵衛



●プロフィール
井筒八ツ橋本舗(株) 取締役名譽会長
1923年京都生まれ。京都帝国大学(現京都大学)農学部
農林生物学科卒業。1983年、第八代佐兵衛を襲名。
1994年、井筒八ツ橋本舗(株)代表取締役社長に就任。
2008年、同取締役名譽会長に就任(現在に至る)。現在、
京都名産品協同組合理事長はじめ数々の要職を務める。

日本が小さな島国でありながら、国を世界に開くにあたって、多くの先進国から評価され、ほめられたえられた昔の誇りをとりもどすには、どうすればよいでしょうか。

それは勇氣と忍耐と礼儀止しで教育された武士道を根源とする日本精神(大和だまし)を復活するのが急務だと結論づけました。

この武士道協会で論ぜられている諸先生方の武士道による救国論は、どのように奨めれば実現するのでしょうか。

まず第一に教育の問題があります。日本は勿論のこと、世界の有力な国家にはそれなりに社会道徳があります。私共はそれも学んで日本の社会に道徳の規範をつくらねばなりません。

宗教にしても、それぞれの宗教家にまかせずに、世界の現状を知り、それぞれの人がその中から自分の信ずる宗教を選べる状態を作ることこそ教育の使命でしょう。

更に哲学の教育も必須科目にして欲しいものです。

そしてこれらは政治家の理解とその傘下の教育者の協力が必要です。

第二に武士道を理解しやすい立場の人々があります。例えば、自衛隊、警察、武道家(剣道、柔道、空手、格技、弓道、射撃、馬術、水泳など)。

第三にスポーツに参加しておられる男女の方々には武士道に通じるスポーツマンシップがあります。

第四、国を代表して諸外国との外交に携わっておられる最も重要な方々は、先ず日本精神とその根幹をなす武士道を学び、外交の席に臨まれれば、過去の例を見ても、尊敬を得、好意的な結果をもたらした事例がたくさんあります。

第五、一般大衆の方々への理解を得る手段としては映画と文学があります。歴史小説の筆者は色々の角度から武士道を取り上げ、読者に強い感動を与えておられます。また、映画や文学は世界的に騎士道や、西部魂の物語として人々に感動を与え、正義の勇者が人類に貢献した物語を伝えていきます。

日本でも近年武士道をテーマとする時代劇が人々の共感を得て、日本映画の復活にも貢献しています。

武士道精神をどのように日本の隅々まで浸透さ



武士道の源泉「神道・儒教・仏教」から武士道を見る

平和を目指す武士道

武士道協会 理事
矢作幸雄



◆神道と武士道

武士道を語る場合、どうしても武士の生きた時代の話をしてしまうことになります。なぜなら、その方が話し易いからです。

でも、それでは現代の武士道観には程遠い話となり、若い人には馴染み薄いでしょう。

ことに、武士道憲章を読んで、「これはとうてい自分には夢のような話だ」と興味を失ったり、或いは入会をあきらめてしまう若い人もいるのではないのでしょうか。

この憲章は理想ですし、理想は希望でありますから、この十訓の中の一つでも、これなら守れるかなと思えば、もう武士道協会の会員の資格は

充分にあると思います。

入会には肩肘を張る必要はありません。

「侍ジャパン」を旗印にした野球チームが世界を制覇しました。原監督以下のプロ選手達が、正々堂々と戦って勝利を手にしましたが、侍ジャパンは武士道精神を以って日本の野球をやるぞ！という意味からの命名であったと思われまふ。そして、全世界の野球ファンが侍ジャパンの野球に魅了されました。

優勝後の記者会見でも、誰一人として驕ることなく、謙虚な心で語り、武士道精神を偲ばせるのに十分な内容でありました。

日本は、六十三年前の昭和二十年（一九四五）に、戦争に負けて多くのものを失いました。なものにも替え難い多くの若い生命と、有形無形の財産を失いましたが、戦後、戦勝国によって強制的に消し去られたのは、日本の歴史と、歴史が織り出した武士道精神でありました。

戦争になった理由は複雑ですが、原因を探れば、白人国家群による有色人種国家の植民地化を阻止しようとしたことに至ります。

鎖国から明治維新を経て近代化した日本が見た

世界は、白人国家によって尽く植民地化され、支那（中国）がいままさに各国に依って植民地化が進み始めたところでした。

日本が支那に介入せざるを得ない事情があったことは申すまでもありません。

国を挙げて理不尽と戦った日本も、矢折れ弾尽きて原子爆弾を受けて敗戦となり、陸海軍を失われました。

この第二次世界大戦は、日本の敗戦で幕を閉じましたが、多くの白人国家に支配されていた植民地が、すべて独立いたしました。

新生国家の人々の中では、今でも日本を産みの親と語り伝えているそうです。

武士道。言葉は厳しいかも知れませんが、目指すところは平和な世界といえるでしょう。

●プロフィール

元・筑波山神社権宮司
1934年、茨城県生まれ。国学院大学に学び、1961年、大洗磯前神社権宮司、鹿島神社権宮司、筑波山神社権宮司等を歴任。神社本庁教諭として、1983年より水戸少年刑務所に6年、茨城農芸学院に20年、収容青少年の相談指導にあたる。1992年と1998年に、筑波大学大学院非常勤講師をつとめる。歴史考房回帰洞を主宰。鹿島神社教学顧問、鹿島新当流彰古会顧問、鹿島神流武道連顧問。著書に「こもろび」(1962年にNHKテレビドラマ放映)、「やまとたけるのみこと」「こぼろばなし」「古代筑波の謎」など多数。

忠誠心と惻隱の情

武士道協会 理事
安岡正泰 やすおかまさやす



◆儒教と武士道

歌舞伎座二月公演を久し振りに観に出かけた。それは演目の一つにある歌舞伎十八番の内『勧進帳』を堪能したからである。

歌舞伎とくに時代物の『忠臣蔵』や、伊達騒動の『先代萩』や『勧進帳』が今でも人気のある演目として観客を動員している理由は、日本人の武士道に対する潜在的な憧憬意識があるからといえる。

『勧進帳』を観るのは何回目になるのか、はつきりとした憶えはない。しかし少年の頃母に連れられて観に出かけたことを今でも懐しく思い出すし、その時の感動は胸に焼きついて残っている。それは物語の内容が、日本人の根底に流れている「敬」「義」、そして「忠誠心」や「剛直」、「惻隱の情」といった精神が生きて描かれていることと名優といわれた役者の見事な芸が、まだ子供であった私の心にも強く刻み込まれたからであろう。

『勧進帳』は、能の『安宅』を歌舞伎にしたもの

である。その粗筋は、鎌倉時代初期、兄源頼朝と不和となって追求を逃れるため、弟義経主従が山伏姿になって加賀の安宅関へ辿り着いたときの、関守富樫左衛門との緊迫した問答物語である。

今回の配役は、吉右衛門の武蔵坊弁慶、梅玉の源義経、四天王は次代を担う染五郎の亀井六郎、松緑の片岡八郎、菊之助の駿河次郎、ベテラン段四郎の常陸坊海尊そして菊五郎の富樫左衛門という豪華な役者達である。とくに弁慶役の吉右衛門、富樫役の菊五郎は当代随一の弁慶役者、富樫役者といわれている。

見所は随所にあるが、富樫の厳しい勧進詮議に弁慶が白紙の『勧進帳』を読み上げる場面、山伏問答をする富樫との緊迫した応酬、弁慶主従一行の中にいた義経が番卒に見とめられ、義経を杖で打つ弁慶の苦衷、それを見て強力が義経と察しながらも必死に主君を守ろうとする弁慶の姿に心うたれて、関所通過を許す富樫の情、富樫の振舞酒に弁慶が酔って踊る延年の舞、最後の弁慶が金剛杖を振り廻し、大見得をきって片手六法で花道を飛び去る場面など、役者の熱演と相俟って観客は否応なしに『勧進帳』の舞台に引き込まれていく。

『勧進帳』を観ながらあらためて日本の伝統精神である武士道を考えてみた。

武士道協会の憲章に

「武士道は忠誠心を堅持する 忠誠」

「武士道は、剛直をもって旨とする 剛勇」

「武士道は、惻隱の情を心に蔵する 仁愛」
『勧進帳』に登場する弁慶と四天王は忠誠の士、そしてさらに弁慶は剛直の士であり、富樫は惻隱の情をもった仁愛の士である。これこそ武士道を尊ぶ日本人の心にあるものといえる。

武という字は、戈を止むと書く。その武がだんだんと精神性を深めて武士道になったと思う。東洋といわず西洋といわず人間の歴史を振り返ってみると一つの王朝に、政權が倒れると前者は抹殺されるといふ、まことに苛酷な事実が積みあげられている。

日本においても徳川幕府が倒れたとき、おそらく將軍慶喜を始め幕府要人は抹殺されたに違いない。日本には武士道というすばらしい精神があったからこそ明治維新という立派な革命が出来たのである。南洲や海舟のような武士がいたから江戸は焼け野原にならなかつたといえるのではないか。

忠誠心を疎かにし、情緒の乏しくなった現代の風潮の中、いたずらに利を競うばかりでなく、まず自分自身に活を入れて日本の伝統的精神的基盤である武士道精神を学び直して、自ら信する正義のために励む必要に迫られていると考える。

●プロフィール

（財）郷学研修所 安岡正篤記念館理事長

1931年、東京都生まれ。1956年、早稲田大学第一法学部を卒業、日本通運株式会社入社。1989年、同社取締役（総務、人事、労務部門担当）に就任。1991年、常務取締役、1993年、常務取締役兼中部支店長を経て1995年、退任。関係団体役員を経て1999年、財団法人郷学研修所 安岡正篤記念館理事長に就任。現在に至る。著書に『為政三部書（字）』致知出版など多数。

「平常心是道」

武士道協会 理事 田中成明 たなか じょうみょう



◆ 仏教と武士道

「武士たらんものは、正月元日の朝、雑煮の餅を祝ふとて、箸を取初るより其年の大晦日の夕に至る迄、日々夜々死を常に心にあつるを以て、本意の第一とは仕るにて候、……惣而人間の命をば、夕の露、あしたの霜になぞらへ、随分はかなき物に致し置候中にも、殊更危きは武士の身命にて候を（以下略）」『武道初心集』（大道寺友山著）に武士の心得がある。戦闘に生命を捧げる武士にあっては、死は眼前のもの、常に心に死の念を持っていて。ゆえに武士は真剣に参禅し、平常心を養っていた。

昭和四十九年（一九七四）夏、私はアフガニスタンのカブールに滞在し、仏教遺跡の調査をしていた。その日、パキスタンとの国境の街ジェラバードで二頭立ての牛車を雇い、ガンダーラ仏教発祥地の一つである「ハッダ」を目指した。ようやく目的地に着き、博物館の中に入り目を疑った。

そこには頭のない仏像、手や足、鼻も耳もなく、目をくり抜かれた数百体の仏像が転がっていた。中国の法顕三蔵（AD三三九―四二〇）が、ハッダを訪れた頃には堂塔伽藍が薨を競い、三千人の僧侶がいると『法顕伝』に記している。しかし、廢墟となったハッダの地を歩き、私は身も心も疲れ丘に沈む夕陽をながめていた。突如、手に銃を持つ集団が丘に現れ迫ってきた。逃げれば撃たれる！と判断し、坐ったまま般若心経を唱えた。心経の最後の御真言を「ガティ・ガティ・パラガティ・パラサンガティ・ボーディ・スヴァアーハー」とサンスクリット語で唱えた。五メートルまで迫るとリーダーが「何をしている？」と言った。「ブツダの像を見に来た」と答えると、相手は銃をおいて微笑した。彼らの先祖はみな仏教徒で、千年以上も仏像を拜んできたが、イスラム教に改宗し仏像を壊し捨てたのだ。この国境の山岳地帯にゲリラ

羯諦羯諦

波羅波羅

僧伽僧伽

菩提薩婆訶

（彼らは後年ソ連軍と戦った）がいると大使館で注意されていたが、私が日本人であると判ると村に案内し歓待してくれた。その理由は、首都カブールの水道システムを日本人技師が完成させ、日本人が農業技術の向上に貢献していることを彼らが感謝しているからであった。

兵士らに銃口をむけられ、絶体絶命の状況でも私の心は安らかであった。それは、ブツダが大悟した菩提樹の下で、命がけの坐禅を修し平常心を得たからである。このハッダでの体験以来、ニューヨーク、パリ、ローマ、どこでもどんな事にも動じなくなった。

たからである。このハッダでの体験以来、ニューヨーク、パリ、ローマ、どこでもどんな事にも動じなくなった。

たからである。このハッダでの体験以来、ニューヨーク、パリ、ローマ、どこでもどんな事にも動じなくなった。

●プロフィール

アメリカ大日寺住職・国際マンガラ協会会長
1947年、埼玉県生まれ。1968年、東京金剛寺（高幡不動寺）にて出家得度。1970年、京都大覚寺伝灯学院卒。1970年、国際仏教興隆協会よりインドに派遣される。1975年3月帰国。1975～1978年薬師寺で説法。1978～2000年まで欧米人に仏教を伝道。2001年より早稲田大学オーブンカレッジ講師。著書に『ニューヨーク曼荼羅』『神通力』『親孝行』など多数。

使命感を大きな支えに 「武士道と共に生きる」

武士道協会 理事
かぎやま ひでさぶろう
鍵山秀三郎



十年偉大なり、二十年畏るべし、三十年にして歴史なる（詠み人知れず）

振り返ってみますと、私の掃除人生も、まさにこの言葉どおりでした。会社を創業して、最初の十年間はほとんど私人だけで掃除をしていました。十年を過ぎるころから、一人二人と手伝ってくれる社員が現れてくるようになりました。二十年になるころは、ほとんどの社員が掃除を手伝ってくれるようになり、自分たちで会社と近隣の道路を掃除する社風が定着しました。

同時に、仕入先やお客様から掃除をする社風が評価されるようになりました。二十年を過ぎるころには、仕事に直接関係のない方々が掃除研修に来社されるようになりました。三十年を過ぎるころから日本全国に「掃除に学ぶ会」ができ、地域の学校や公園のトイレを掃除するようになりました。平行して、外国にも飛び火し、ブラジルをはじめ中国・台湾・アメリカでも開催されるようになりました。四十年を過ぎた現在、治安対策の一環として地域社会の掃除もしています。輪は広がり、今や国民運動の様相を呈しています。

今は国民運動の様相を呈している掃除も、最初の十年は逆

境であり毎日が自分との戦いで辛い辛い試練でした。心ない言葉に傷つき、掃除を止めた方が良いのか……と自問自答することが何度もありました。でも私は信念を貫き、歯を食いしばって自分の出来ることを無心に続けました。そして、気がついたら今があったのです。

この努力が出来たのも私の心の中に「人の幸せを願う心・武士道」が育まれていたからです。武士道は教科書では習いませんでしたが、父と母が後ろ姿で私に教えてくれた道徳心なのです。だから、諦めずに掃除を続けることができ、その結果逆境を乗り越えられました。乗り越えた今、当たり前前のことにも感謝をする気持ちが大きく育ちました。私は今、いつも幸せを感じています。だから自信をもって武士道を広げる活動をしているのです。

●プロフィール

(株)イエローハット取締役相談役

1933年、東京生まれ。1952年、疎開先の岐阜県立東濃高校卒業。1953年、デトロイト商会入社。1961年、ローヤルを創業し社長に就任。1997年、社名をイエローハットに変更。1998年、同社取締役相談役となる。創業以来続けている「掃除」に多くの人が共鳴し、近年は掃除運動が内外に広がっている。

「日本を美しくする会」相談役。

著書に『凡事徹底』『鍵山秀三郎語録』『小さな実践の一步から』など多数。

「学校教育と 武士道精神」

【第三回】

武士道協会 特別顧問

うえた ひろかず

植田宏和



鹿児島県南九州市知覧町、一九四二年に太刀洗陸軍飛行学校知覧分校が開校し、一九四五年、沖繩戦の特攻基地となり多くの若者がここから飛び立っていったことで有名である。ここには、特攻平和会館があり、大東亜戦争末期沖繩決戦において、特攻という人類史上類のない作戦によって、一機一艦の突撃を敢行した多くの特攻隊員の遺品や関係資料が展示されている。

一〇三五名の遺影、遺書、遺品等を見る中で、感じたことがあった。十代から二十代の若者の写真は、どれも幼さは残るが凛とした顔であること。日の丸に書いた寄せ書きや家族への手紙の文字が現在の若者に比べて、達筆であるということ。遺書の内容が自分の境遇を恨むものではなく、家族の幸せを願い、人を思いやる言葉ばかりが書かれているということなどである。この時代に生きた若者は、自分の愛する者を守り、自分の愛する国を守るために命をかけていたのである。もちろん多くの人の命が奪われた戦争を肯定したり、若い命を散らした特攻という作戦を賛美したりするものではない。しかし、若者たちは、己の意志を捨てて家族や国を守るという武士道につながる崇高な精神力を持っていたことは事実である。

現代の若者はどうであろうか（若者だけではないかも知れないが）。多くの子供たちが大学へ進む時代である。学生の本分はなどというつもりはないが、時間を浪費するだけの毎日を送っている学生の姿に辟易する。インターネットやゲームに耽り、親の金で自由に遊ぶ若者、大麻や薬物の吸引で逮捕される若者、それを許している親などに今の日本の歪みが現れている。戦前の若者にとって、両親や教師の言うことは絶対であった（兵役においては上官の命令）。これは、明治以前においては、もつと顕著だったに違いない。その要求が時には理不尽だと感じることもあっただろう。しかし、子供たちはそこで抑制され、我慢する中で鍛えられたのである。先に述べた特攻隊員が書いた文字の素晴らしさは、教師によって指導され鍛えられていたからに他ならない。子供たちの自主性だ、自由意志だときれいな言葉に惑わされない教師がいたのである。武士道精神とは、抑制され、我慢する中で育つものだと思う。

現代の歪みは、少子化により一人の子供にかけるお金も時間も多くなっていることが原因の一つである。通学合宿や集団活動の中で、抑制されることや我慢することの体験を通して、子供たちを鍛えていく必要があると考える。諸外国にある徴兵制度もそのひとつである。日本において導入することはできないが、工夫を凝らした、社会的な訓練の場が必要な時代が来たのではないだろうか。

●プロフィール

前全日本教職員連盟委員長

1960年、徳島県生まれ。鳴門教育大学大学院学校教育研究科修了。徳島県公立学校教員、全日本教職員連盟事務局次長、事務局長、副委員長を経て、全日本教職員連盟委員長、平成21年度より徳島県小松島市、北小松島小学校教諭。

武士道と社員研修

武士道協会 常務理事・事務局長

ほんだももよ
本多百代

なぜ今、日本型 人材育成か



仕事を楽しんでいると感じる人と仕事はつまらないと感じる人がいます。そもそも仕事とは何のためにするのでしょうか？ 日本では仕事をすることを「働く」「お勤め」などという言い回しを使います。働くのは「人が動く」と書き「端を楽にする」ことだと意識されています。お勤めの「勤（いそ・し）」という字は「先をあらそう」という意味を持っています。つまり、仕事とは「他の人よりも一歩先んずるための競争をしながら取り組み動くこと」という意味を持っています。まさに武士道精神の「智慧（考える力）」と「克己心」（逆境を乗り越える力）です。ライバルを蹴落とすのではなく、競争に負けたくないから智慧を振り絞り自己練磨するから成長できるのです。

しかし、ゆとり教育により競争は悪いことのように忌み嫌われ始めました。結果、いつのまにか楽をして仕事はするものだという錯覚を起こしている人が増えました。そういう人に限って「生活のため」「お金を得るため」だけに働いているようです。新人も目標や目的をもって入社してくる人が年々減っています。仕事を辛く感じたり面白くないと思う原因はここにあるのです。

学生時代に必死に就活をしている時は、高収入を得られ好条件で

働ける会社の内定を勝ち取ることを目標としていた新入社員にとって入社後の目標と経営者と同じ目線の目的（経営理念に沿った目的）を持つていなければ、翌日から山登りに喩えれば即下山です。こちらは本物の山とは違って麓がない下山であり底辺が見えません。自分が次の山を見つけない限り永遠に続く下り坂を転げ落ちていくのです。日を重ねるに連れて足はがくがく、気持ちはけんけんし、溜息をつきながら歩いているのと同じです。すから夢も抱けず、会社を辞めたいと考えるのが当然です。

入社前に経営理念を調べて感銘し、志を持って入社した人ばかりならば、人の先を行くために己を奮い立たせて仕事に取り組むでしょう。しかし、志望会社の内定取得を目標としてきた人にとっては、目標は達成してしまふ余韻のみで入社してくるのですから、思っていたことと違う、想定外のことが多いなどと不満が出てくるのです。そこで、社員が夢を抱いて仕事に取り組めるように社員研修を実施します。ゆとり教育を受けてきた人達に武士道精神を注入し、志を持つことの大切さと、仕事はお金のためや生活のためだけにするものではないことを教えるのです。自分を活かすことで社会貢献し、必要とされていることを自覚できた時に仕事は楽しくなるのです。そこでまた新たな目標が生まれてきます。責任を全うすることで得られる達成感を体験させ、潔さを持つてるように育成することは、会社の将来のためにも必要不可欠なものです。

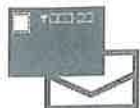
●プロフィール

(有)LineAge(ラインエイジ)代表取締役

武士道を取り入れた人材育成・社員教育を発案実施。講演講師、社員研修講師、就活セミナー講師、大学ゲスト講師などを務める。

中日新聞社の中日研修センターで、組織開発と人材育成にたずさわる。また、組織を活性させる方法をみつけるため、自ら16社11業種でパートとして働き、社員の意欲について研究を重ね、武士道による育成方法を見つけた。著書に『これで完璧人材育成白書』がある。

会員さまからのお便り



武士道から医師が学ぶべきもの

佐賀大学医学部危機管理医学 教授 奥村 徹

最近、医療崩壊と言われて久しいが、救急医療の世界でも様々な問題が噴出している。多くの医師が救急医療に理解を示し粉骨砕身している事は厳然たる事実である。しかし医師の中には、自らの生活向上のみに心奪われ、救急医療の本質を理解せず患者を診ずして病氣しか診ない者もあり、問題を複雑にしている。

患者に尽くそうとする初心を持っていたはずであるが、倫理教育がなされていないためにかくなる状況を招いた。古くから医道、医師道という言葉はあるが、今まで日本の医療界はその倫理規範を具体化することを避けてきた。この状況を鑑みて、私は武士道の解釈をもって葉隠の地から医師道教育の必要性を発信している。医師が武士道精神に学ぶべきものは多い。



武士道、我が心の淵源たり

会員 鎌田 敏

父は大正末期に帝国海軍に飛び込み、昭和帝国海軍とその歩みを一にしつつ奇跡的にも生き残り、そして敗戦により父の軍人としての道は終わった。その父が幼少期の私に寝物語としてよく海軍時代を語ってくれた。子供ながら興奮し、父に話をせがんだことが今もって頭の片隅に残っている。

進学は一度は防衛大学へと考えたが、理数系科目が好きになれず結局は文科系の進路となった。大学では勉強は二の次、エネルギーの大半を体育会空手部の生活に費やした。当時の学生空手は戦前、戦後から続く大学運動部特有というか、裏面史なるものが我々の世代まで伝統として相当色濃く残っていたといえよう。言うまでもなく空手は武道、命を取るか取られるかの世界、いつも激しい稽古が待っていた。そこには妥協や猶予は許されない。一方、空手に限らず武道では「礼に始まり礼で終わる」ことが重要視される。我々は「心の在り方」についても強く叩き込まれたのであった。

日本に沖縄から唐手(空手)をもたらしした我が大学の最初の師範である富名腰義珍先生は、「空手の空は、武芸の極地は己を空しうするにあるの意であり、道は武士道への醇化である」とし、「空手は君子の武芸」の金言を我々に残された。正に「心・技・体」の一致を究極の姿として求められたのである。

世の中に出て、自分ながら幾多の本を読んだという部類に入るのであろうが、凡々人である私は空手を通じて教わった高邁な精神には程遠く、未だもって煩惱を繰り返す毎日である。

50歳代も後半を迎えるに、特にどうやったら「揺るぎのない自己の確立」が図れるのかを追い求めている最中、62歳の私が昨年、当武士道協会と巡りあったのであった。自身、己が人生修練の場のひとつが武士道協会と思っている。

諸先達の皆様にご指導、ご鞭撻をお願いするところである。また、己が出来ることは何か、可能な範囲でお手伝いをしたいと思っている。

【投稿募集】あなたの武士道に関するご意見を事務局までお寄せください。

- 字数：250字程度
- 住所・氏名(ふりがな)・年齢・職業・電話番号を明記(匿名希望の場合は、その旨も明記)
- あて先 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11 PHP研究所内 武士道協会事務局 読者投稿係
- FAX、電子メールでの応募も受け付けます。なお、原稿は返却できません。また、内容を損なわない範囲で修正させていただきます。ありがとうございます。

※個人情報厳重に管理し、必要に応じた利用以外には使用いたしません。

●活動報告

「鹿島に武士道を広める会」設立記念講演会を開催

2月11日に茨城県鹿嶋市で、会員の中島誠吾様を中心に、かしま青年会議所、インファイト（鹿島アントラーズ私設応援団）などの協力のもと、記念講演会が開催されました。200名近くの市民の方が、当協会の塩川理事長、小野専務理事、そして地元の矢作理事の講演に熱心に耳を傾けておられました。講演では、塩川理事長は、荒廃した今の社会を指摘され、「相手を思いやる気持ちが武士道精神だ」と強調、「礼を尽くし、自己責任を持つことが、武士道の実践である」と締めくくられました。小野専務理事は、「現代日本には、形式主義、便宜主義、小市民主義がはびこっている。心をただす必要がある」と話され、また、矢作理事は、鹿島の大神の話を解説され、「武器を使わないで説得することが本当の精神である。武士道のもとにすばらしい社会をつくろう」と訴えられました。

中島様はじめご尽力いただいた鹿島の皆さま本当にありがとうございました。



「武士道協会設立1周年記念及び新年会の集い」が開催

2月4日、東京のJAEA青山分室にて、会員の鎌田敏様による武士道協会会員の新年交流会を開催、当日は、60名近くの方が参加されました。小野専務理事の講話のあと、懇談会に入り、お互いの親睦が深められ、楽しく有意義なひと時を過ごす事ができました。

鎌田様、本当にありがとうございました。



広報誌「武士道」、及び協会ホームページへの広告掲載のお願い

協会の活動趣旨にご賛同いただける企業様からの、広報誌『武士道』、ホームページへの広告を募集します。広告収益は、本活動を更に充実させていくために活用させていただきます。ぜひご協力をお願いいたします。

(内容は、勝手ながら、会社の理念広告に限定させていただきます。)

※ご検討いただけます場合には、事務局までご連絡ください。資料をお送りさせていただきます。

【広告募集要領】

- 1.掲載及び広告料(年間契約)
広告料:年間 120,000円(法人会員価格100,000円)
内訳①広報誌『武士道』(年4回発行)に4回掲載
1/2段(50mm×85mm)
②ホームページに1年間掲載・50×134ピクセル
版下原稿はデータで提出ください。
- 2.単発掲載価格
①広報誌 20,000円/回 ②ホームページ 5,000円/月

定期講座の
ご案内

武士道

東京会場

場所: PHP研究所東京本部 〒102-8331 東京都千代田区三番町3-10

	日時	講師		日時	講師
第1回	5月9日(土)	矢作理事	第4回	8月1日(土)	小野専務理事
第2回	6月6日(土)	安岡理事	第5回	9月5日(土)	本多常務理事
第3回	7月4日(土)	田中理事	*時間は、いずれも13:30~16:30です。		

京都会場

場所: PHP研究所京都本部 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11

	日時	講師		日時	講師
第1回	5月10日(日)	矢作理事	第4回	8月2日(日)	小野専務理事
第2回	6月7日(日)	安岡理事	第5回	9月6日(日)	本多常務理事
第3回	7月5日(日)	田中理事	*時間は、いずれも10:00~13:00です。		



勉強会・講演会を
DVDで!!



- 第1回勉強会:講師 小野専務理事
コメント:鍵山理事・植田理事
- 第2回勉強会:講師 小野専務理事
「吉田松陰について」
- 第3回勉強会:講師 小野専務理事
コメント:JICA成瀬猛様

各DVD全1枚 会員頒布価格:1,000円(録画時間:約2時間)

- 第1回講演会:講師 塩川理事長・矢作理事・安岡理事・田中成明様
- 第2回講演会:講師 江口副理事長・高山直様(EQジャパン社長)・門川理事

各DVD全1枚 会員頒布価格:2,000円(録画時間:約4時間)

*いずれも、当日配布いたしました資料を添えてお届けします。

会員募集キャンペーン

「おひとり1名紹介キャンペーン」にご協力を!

武士道協会の活動充実のためには、会員の増大を図ることが不可欠です。ただいま、会員募集のキャンペーンをおこなっております。会員の方に、おひとり1名をご紹介いただければ、活動は一挙に広がります。ぜひ、あなたの力を貸してください。よろしくお祈りします。

キャンペーン期間

平成21年4月1日~6月30日

キャンペーン期間内に、ご紹介いただき、ご入会をいただいた場合には、ご紹介者に当協会江口副理事長の著書「成功は小さい努力の積み重ね」を、直筆サイン入りでご贈呈させていただきます。

★ご紹介いただくための案内パンフレットをご用意いたしております。事務局までご連絡下さい。



編集後記

歴史に興味を持つ女性が男性と同じく60%にのほることが、ある調査で判明。NHK大河ドラマの好調、歴史に詳しい女性を指す「歴史女(れきじょ)」なる言葉が生れるなど、歴史がちよとしたブームになっていきます。いま、京都、東京で若いお母様方を対象に「上手な子育て教室」、若い世代の人を対象に「人間力向上セミナー」を開催しています。また小規模なセミナーですが、毎回、若い参加者たちの「武士道」への関心の高さ、熱心さに驚かされ、あらためて、協会の使命の大きさを感じています。広報誌も3号を数えるにいたりしましたが、もっともっと、会員様の声も反映していきたいと思っております。皆さまのご意見をどうぞお寄せください。お待ちしております。

武士道協会事務局

〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11 PHP研究所内
TEL(075)681-5514 FAX(075)682-3565
URL: <http://www.bushido.or.jp/> E-mail: info@bushido.or.jp

特定非営利活動法人 武士道協会

- 武士道第3号
- 平成21年6月1日発行
- 季刊